

芸術科書道 学習指導案

1. 日 時 令和〇年〇月〇日(〇) 第〇時限
2. 場 所 書道教室
3. 学 年 第1学年
4. 科目・単元(題材)名 書道I 漢字仮名交じりの書「花言葉で伝えよう」
使用図書は、教科書：『書道I』(東京書籍)

5. 単元(題材)の目標

(1)【知識及び技能】

- ・漢字の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解し、古典の線質、字形や構成を生かした表現効果や風趣との関わりについて理解する。
- ・漢字の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。

(2)【思考力、判断力、表現力等】

- ・漢字の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫することができるようになる。
- ・漢字と仮名の調和した字形や構成等の要素と、意図に基づいた表現について構想し、工夫することができるようになる。

(3)【学びに向かう力、人間性等】

- ・自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの書の特質に基づく幅広い表現や鑑賞の学習活動に主体的に取り組む態度を養う。

6. 教材観

本単元は、漢字の書からの流れを生かし、主に行書の手本と言われる「蘭亭序」の学習を生かした漢字仮名交じりの書の作品を創作する。メインとなる言葉は、「蘭亭序」の書風をもとにし、小書きの添え文はこれまでに学習した楷書や行書のどちらを選んでも可とした。書体の書き分けや、古典の書風をもとにして、生徒たちが自分の思いを言葉にのせて表現することをねらうとともに、自分の意図に応じた構成案を考えられるようになることをねらいとして設定した。

7. 生徒観

(省略)

8. 指導観

言葉選びや構成を試行錯誤し、表現の豊かさ・楽しさを味わいながら取り組ませたい。他の人の書きぶりを見ながら自身の作品に生かしたり、批評したりする力を養いたい。

9. 単元(題材)の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
<ul style="list-style-type: none">・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。(知表)・線質、字形、構成等の要素と表現効果との関わりについて理解している。(知鑑)・漢字の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。(技)	<ul style="list-style-type: none">・漢字の書の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成、意図に基づいた表現について構想し工夫している。(思表)・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。(思鑑)	<ul style="list-style-type: none">・自身の表現の意図に基づく表現や漢字仮名交じりの書の特質に基づく表現に関する学習活動に主体的に取り組もうとしている。(態表)・漢字仮名交じりの書のよさや美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。(態鑑)

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全6時間）

[●：形成的評価 ○：総括的評価]

	学習活動	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知表	知鑑	技	思表	思鑑	態表	態鑑
第1時	単元の見直し							
	鑑賞①							
	構想・工夫①				●			
	観点の確認①							
第2時	観点の確認②	●						
	構想・工夫②							
	作品制作①			●				
第3時	相互鑑賞・意見交換①		●					
	構想・工夫の見直し①							
	作品制作②			●				
第4時	鑑賞②		●					
	構想・工夫③							
	作品制作③			●	○			
第5時(本時)	鑑賞③							○
	構想・工夫④				○			
	相互鑑賞・意見交換②		○					
	学習のまとめ						●	
第6時	構想・工夫の見直し③							
	作品制作④			○				
	自己評価						○	
	単元の学習のまとめ	○						
●形成的評価		●	●	●	●		●	
○総括的評価		○	○	○	○	○	○	○

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

様々な構成を試す活動の中で、構成等の要素を理解し、紙面の大きさに応じた文字の配列方法や文字間と余白の関わりについて分析的に捉えられる力を身に付ける。

(2) 本時の評価規準

- ・線質や字形、構成等の要素と表現効果との関わりについて理解している。【知鑑】
- ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、意図に応じた表現形式について触れたりしながら、様々な構成パターンを考えている。【思表】
- ・様々な構成パターンがあることについて、気付いたことを言語化している。【態鑑】

(3) 本時の準備物

- ・教科書、授業プリント、Chromebook、前時の作品

	まとめ・片付け	15分	<p><学習のまとめ・振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書における構成パターンの考え方について確認するとともに、表現意図との関わりについて考える。 次回の作品制作（清書）にどう生かしていけるかを考え、ワークシートに記入する。 片付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の構想・工夫の過程を振り返りながら、漢字仮名交じりの書における構成パターンの考え方をもとにして、次回の作品制作（清書）にどう生かしていけるのかを考えるよう働きかける。 自身の学習過程の振り返りが、次回の学習への見通しに繋がられるよう働きかける。 ◆自身の学習過程の振り返りが適切に行えない場合は、振り返るための観点などを例示するなどして、今後の学習活動での振り返りに繋がられるよう段階的に支援する。 						ワ	●
--	---------	-----	---	---	--	--	--	--	--	---	---

【評価方法の具体】

態鑑○：<鑑賞③>

前回の授業作品の内、数枚を一斉提示して全体に共有する中で、様々な構成パターンがあることを知り、気付いたことを言語化している状況をワークシートの「鑑賞③」の記述内容から見取り、記録に残す。

思表○：<構想・工夫④>

構想・工夫を考える中で、漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、意図に応じた表現形式について触れたりしながら構想・工夫している状況を、Chromebook のカメラ機能で撮影した写真とワークシート「構想・工夫④」の記述内容から見取り、記録に残す。

態表●：<相互鑑賞・意見交換②>

相互鑑賞・意見交換を通して、本時までの学習の中で習得した知識の観点（線質、字形）をもとに、他者の作品に対して構成案を適切にアドバイスしている様子を観察し、良いアドバイスの例や全体に見られる傾向などをクラス全体に対して例示や口頭で助言するなどし、指導に生かす。

知鑑○：<相互鑑賞・意見交換②>

相互鑑賞・意見交換を通して、本時までの学習の中で習得した知識の観点（線質、字形）をもとに、作者構成案に対してアドバイスしている状況をワークシート「相互鑑賞・意見交換②」の記述内容から見取り、記録に残す。

態表●：<学習のまとめ>

本時の自身の制作過程を振り返る中で、線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強く取り組もうとしているか、その中で身に付けた知識と技能を振り返ることで必要な修正と新たな課題について自らの学習を調整しようとしているかの両面について、主体的に学習に取り組む態度をワークシートの振り返りの記述内容から見取る。また、次回の授業でクラス全体に対して振り返りの記述内容や全体に見られる傾向などを共有するなどして、指導に生かす。

(5) 観点別学習状況の評価の判断基準の設定 (本時に総括的評価が伴う場合)

	「十分満足できる」状況 (A)	「おおむね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況 (C) と判断する生徒に対する指導のてだて
【c】 態鑑	文字の大きさや文字間と余白の関わりについて分析的に捉えながら、様々な構成パターンがあることについて、気付いたことを言語化している。	様々な構成パターンがあることについて、気付いたことを言語化している。	学習した書を構成する要素と表現効果との関わり、自身の取組みの経緯について振り返らせ、主体的に鑑賞の学習活動に臨みたいと思えるように支援する。
【b】 思表	漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、意図に応じた表現形式について触れながら、 自身の表現意図に基づいて深く構想し、表現を工夫する とともに、自身の考えの図案を記入している。	漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、意図に応じた表現形式について触れながら 構想・工夫し 、自身の考えの図案を記入している。	自身の学習過程の振り返りとそれに対する自己評価の方法を例示し、書を構成する要素と表現効果との関わりについて理解させるなどして、自身の作品の価値とその根拠について考えられるよう支援する。
【a】 知鑑	表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし、 線質や字形、構成等の要素と表現効果に関わ らせながら、他者の作品に対して、適切な用語を用いてアドバイスできている。	表現及び鑑賞の学習活動の中で身に付けた知識を生かし、他者の作品に対してアドバイスしている。	書風を形づくる字形や文字構成の構成等の要素と表現効果との関わりを理解させるなどして、線質、字形、構成等の要素と表現効果との関わりについて実感的に感受、理解できるように支援する。